

arte tokio

SH-M ユーザーズマニュアル

この度はアルテトキオ Sidh's【シーズ】をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品はシリコン・エラストマー(ゴム)製の皮膚と、金属・樹脂複合の内骨格を持つ高級シームレス・シリコン・ドールです。従来の人形と大きく違う点は表面に繋ぎ目がないことと内骨格を持っていることです。表面のシリコン・エラストマーが自然な表情を造り出し、内骨格がそのポージングをサポートします。ただ繋ぎ目のない関節が曲がるというだけではなく、例えば膝を曲げた時など、ももとすねの内側のシリコン同士がそれぞれに変型するので、自然に密着してくれます。これまでの人形では無理だったポーズなども取れ、またひと味違ったドールライフが提供できることと信じております。

シリコン・エラストマーの特性について

石油製品と違いシリコンは非常に歴史の浅い合成ゴムですが、近年では限りある石油資源に替わり、様々な用途、場面で使われつつある素材です。原材料はガラスと同じケイ素で地球上ではとても多い物質の内のひとつなのです。しかしシリコンの技術は「石油製品に比べて50年は遅れをとっている」とも言われており、未だに改良が進んでいる状態です。

この製品に使用しているシリコンはドイツ製で医療用にも使われている付加型シリコン・エラストマーです。主に人体の欠損部分の補填に使用されております。従来の錫(スズ)を触媒にしたものではなく、白金(プラチナ)を触媒としたもので人体にも影響が少ないタイプのものでありますので安心して手で触れて、その柔らかい感触をお楽しみいただけます。

私達が人形の素材として、このシリコンを選んだのは、今申し上げたように繋ぎ目がない「シームレス」であるというアドバンテージだけではなく、とても柔軟性のある柔らかい材質である点も挙げられます。これまでのゴム素材も柔らかくはあるのですが、シリコンに比べればまだまだ硬いものであり、その張力は内骨格だけではとても支えられません。

非常にデリケートな素材です。

しかし石油系合成ゴムにくらべると、まだ引っ張り強度の点では弱く、限界を超えると裂けやすい性質があります。またカッターナイフや針など尖ったモノなどに強く触れると、そこから裂けてしまう可能性も高くなります。もちろん少々のポージングの変化を付けるだけで簡単に裂けてしまうことはありませんし、無理な姿勢を長期間に渡り取らせなければ変型、崩壊などの心配もありません。一時期のシリコンでは可塑剤(柔らかくするための添加物)が時間の経過とともに抜けていき、勝手に崩壊するという事態もありましたが、現行のものはそれを克服したものです。

静電気を帯びやすい性質があります。

シリコンは非常に帯電しやすく放電しにくいという特性があります。特に冬場にセーターを着て触れると静電気がおこる事があります。また静電気はゴミやウィッグの毛などを引き寄せますので、やや汚れた感じになります。この場合は水で放電させる意味でも、ぬるま湯で洗浄することをお勧めします。細かなホコリなどはボディソープで洗い流して下さい。洗浄は放電も兼ねます。

タック(ベト付き)があります。

シリコンに限らず、可塑剤を添加した樹脂はたいていの場合タック(ベト付き)があります。特にシリコンではタックの強力なものだとシールの粘着面に使用されるほどです。これは付属のパウダー(炭酸カルシウム)をブラシで塗布すると抑える事ができます。タックによってすでに付着してしまったゴミなどは、やはりボディソープなどでよく洗浄し、完全に乾燥してからパウダーを付けましょう。

塗料、接着剤、化粧品等、ほとんど受け付けません。

当製品は基本的に塗装を加えたり、メイクを施したりといったことは困難です。接着剤やラッカー系の塗料であれば硬化後に簡単に剥がれてしまいます。また油性インクや化粧品などノリが悪くはじいてしまいます。一部接着剤でPPP(ポリプロピレン)用のものが使える場合があります。これは接着面にプライマーを塗り、乾燥後主液を付けて接着するものです。一般に流通しているものの中では有効ですが、これを本製品に使用するとその接着剤の部分だけ硬くなり、若干の違和感を感じます。見た目には気にならないでしょう。リペアキットに付属のプライマーを塗布した面に一液性のシーラントを塗り接着、塗装(シーラント自体に塗料を混合)が唯一の方法です。シーラントは多くの種類がありますが同じシリコンで脱酢酸タイプのもので良いでしょう。

可動範囲について



万歳はここまでで限界です。これ以上は上げないで下さい。開脚もここまでが無難です。



腕組みに関しては差程の危険は無いと思われます。脚に関してはこれ以上は曲がりません。正座はできませんが、お姉さん座りや膝立ちはこなせます。



腰は前屈みと横ひねりが可能です。腕はここまでなら後ろに廻せます。首は左右に一ヶ所、前後には二ヶ所の可動関節があります。顎を出すことと引く事が可能です。

- ・可動範囲を超えると裂ける恐れがあります。くれぐれも可動範囲を超えるご使用はお避けください。
- ・可動範囲内であっても、ニュートラルポジション(初期出荷状態)に1週間以上戻さなかった場合裂ける恐れがあります。

各関節の動かし方



腕は全体を握り、手のひらで曲げて行くと良いでしょう。



肩は腕を握りしめて徐々に上に上げて行きます。



首はヘッド全体を持って動かします。



腰は背中とおしりを持って動かします



膝はももとすねを握りしめて動かします。



手足首は関節の根元付近を持って動かします。

耳や指のワイヤーについて

耳や指に入っているのはとても柔らかいワイヤーで、金属疲労も早いので簡単な表情付け程度にとどめて下さい。



耳はちょっと垂れさせたり、上にあげたりする程度とお考えください。



指はガラリとするよりも、若干角度を持たせたり、表情付け程度とお考えください。



このように極端に曲げる事はお避けください。ワイヤーが千切れる恐れがあります。

ヘッドの着脱について



取り外す時は、ウィッグを外してから頭丁部のネジを外します。



取り付けは、先に頭丁部の穴にネジを入れておいてからボディ部の穴とネジの先を合わせます。



頭丁部の穴に指を入れて首側のネジ穴と、ネジの頭が噛むポイントを探り、ドライバーで固定。

ウィッグの取り付け方



ウィッグを完全に裏返しにしておきます。



ウィッグのお尻を人さし指で後頭部のやや下辺りに押さえ付けておきます。



もう片方の手で、ウィッグ全体を軽く引っ張るようにして、前方向に被せていきます。

- ・ウィッグは市販品のSサイズのものが入ります。(例:オビツ社60WG-S03、ゼファー社40cm用)
(参照:オビツ社ウェブサイト <http://www.obitsu.co.jp> ゼファー社ウェブサイト <http://www.zephyr8989.com>)
- ・静電気がひどくウィッグがボディに絡まる時は霧吹きで軽く水をつけるかボディを洗います。
- ・まとまりが悪いときは少し押さえて手の温度で暖めると言うことを聞きます。

ドールアイの調整

当製品はウィッグをセットした状態、あるいはポーズを決めた状態でもドールアイの角度調整ができます。



付属の針で目立たないところを引っ掛けて、持ち上げるようにして動かします。



内部背面には厚紙が入っております。針で背面厚紙から浮かせるように動かします。



このようにウィッグや衣装を外す事無く、場合によってはポーズを変える事無く調整できます。

針を扱う時は指先など怪我には十分に注意して下さい。また針は作業が終わり次第、ただちにケースに戻し安全な場所に保管をしておいてください。

針は小さなお子様の手が届かないところに必ず保管してください。

ドールアイの交換について(推奨しません。)

ドールアイの交換はシリコーンの限界をある程度熟知してから行ってください。特に目の周りのシリコーン層は薄いので注意が必要です。引っ張りはなるべく一部だけに力が掛からない様、全体に分散するようにすれば簡単には破損しません。特に目頭と目尻の裂けには十分に気をつけて作業を進めて下さい。破損や亀裂が入った場合は「ひどく裂けてしまった時、破損してしまった時」の欄(6頁)を参照して下さい。自信が無い場合は止めておいた方が無難です。

ドールアイの互換は「スズセイ」社製品の14mmグラスチックアイのみとなります。他社のものでは見た目共に保証しかねます。(参照:「目玉のスズセイ」<http://www.suzusei.co.jp/>)



ドールアイを外す時は、少し目を開き気味にしておいて息を思い切り吹き込むと飛び出します。



挿入は、目を開きドールアイを少しめり込ませ、目蓋を指で外側にずらしながら押し入れます。



上目蓋の方から開いて挿入し、次に下目蓋を開いて挿入します。後は角度を針で調整します。

ドールアイの交換サービスについて

ドールアイを交換するサービスを行っております。お持ちのシーズ・ドールヘッドを弊社宛にお送りくださればお好みの色に交換いたします。ドールアイのカラーは下記の中からお選びください。在庫次第ではお時間をいただく場合もあります。またお客さまのお送りいただいたヘッドではなく代替えの現行品に替わる事があります。あらかじめご了承ください。

ドールアイ交換手数料(ドールアイ価格込み・送料別)...2,000円

グリーン/ブルー/ブラウン/グレイ/バイオレット/ライトグリーン/ライトブルー/ライトグレイ/ブルーグリーン/ブルーグレイ/ダークブラウン/レッド(これらは在庫の都合により予告なく変更になる場合があります。)

保存方法



原形は中腰姿勢で作られておりますので、これに近い姿勢であれば各関節可動部分にシワが寄る事もなく、人形やシリコンに負荷が掛かりにくくなります。



ゆったりと座らせ、各関節部分にシワが寄らないようにします。また硬いもの上に長期間置いておくと接する面が平らになる可能性があります。付属の低反発マットなどをご使用下さい。



PVC樹脂製品と長期間接した場合、PVC側が溶解する恐れがあります。また品質の低下を招く可能性がありますので長時間の直射日光照射は避けください。

お手入れについて



帯電やタックによって付着したホコリや汚れは、ぬるま湯を使いボディソープなどで洗浄します。洗浄するときに水が背中中の穴(羽接続部)やヘッド接合部に入り込まないように十分に注意してください。水が背中中の穴、ヘッド接合部から内部に浸



入し骨格の金属パーツが錆びる恐れがあります。洗った後は、けば立たない素材の乾いた布で、水分を強く擦らず、軽く押すように拭き、乾燥を待ちます。



乾燥後は付属のブラシでパウダーを塗布します。専用パウダー(タルク)の追加購入は量販店が弊社までお問い合わせください。

リペアキットについて

リペアキットは非常に破損の程度が軽微な時の臨時のものをご理解下さい。付属のシリコンはボディ素材と同じものですが少量では定着力がとても弱いものです。【注意】付属のプライマーは目、鼻、口に付着しないようにご注意ください。万が一付着した場合はよく洗浄し専門医の診断を受けて下さい。また作業後は手をよく洗って下さい。



作業範囲を綺麗にしておいてから、付属の綿棒でプライマー(定着用下地処理剤)を塗布し、15分程乾燥させます。



シリコンのAとBを同量、平たい器か厚紙などに取り、丁寧に攪拌します。



夏期はすぐに硬化が始まりますが、まる一日は置いて下さい。硬化後はパウダーで保護します。

ひどく裂けてしまった時、破損してしまった時

付属のリペアキットで補修できる範囲内であれば、リペアキットで修理を試みてください。破損状況が著しい場合や、リペアキットでの補修範囲外でしたら、別売のシリコンシーラントとシリコントナーによる修理を試みるか、弊社にお送りいただき修理となります。

修理をご依頼される場合は、輸送中にさらに状況が悪化しないようシーズ専用の箱か丈夫な箱に入れて、中で人形が動かないよう厳重に梱包してお送りください。到着次第、修理費のお見積もりをお知らせいたします。軽微なものでしたらおおよそ送料別で1万円前後とお考えください。

メイクが剥がれてしまった時

簡単なリメイクで済むものでしたら、ある程度は復元が可能です。グラデーション部分ですと、復元が難しい場合があります。場合によっては代替え現行品との有償交換となります。その場合、ボディ部のみ下記に記述するシリコンを流しなおすサービスがおすすめです。

間接が完全に脱落してしまった時

骨格は徐々に関節が金属疲労により弛んでしまう場合があることをご了承ください。ただし関節のボルトが完全に外れてしまった場合は、いづれ身体の一部が千切れてしまう恐れがありますので、ただ弛んだのではなく、関節から先が伸びる様でしたら、ただちに修理をご依頼ください。

皮膚を再生させるサービスについて

シリコンが古くなり修繕箇所も増えてきたり、メイクの剥がれが著しくなってきた場合など、お手持ちの人形を新しい皮膚に流し替えるサービスを承っております。49,800円(送料別)の費用で新しいシリコンで流し替え、メイクも施します。ただしこのサービスはボディのみとさせていただきます。